

## EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー  
2009.10.1  
No.63

九月は大きな風が過ぎ去った月となりました。

四月に紹介した病床にあって洗礼を受けた姉妹が九月十日に召されました。一週間持たないかもしれないというぎりぎりのところで念願の洗礼を受けられました。それから八週間続けて日曜日の礼拝に参加されました。八年に及ぶ闘病生活でしたが、病と闘い、真理を求め続け、永遠の希望をついに手にして天に凱旋していかれたのです。地上での別れは本當につらいものですが、イエス・キリストによって救いを得た者たちにとっては永遠の別れではありません。天国での再会があります。

まだその衝撃が冷めないころ、もう一人の主婦の姉妹が召されました。私たちが報告を受けたのが七月半ばですから、なんと二か月の闘病の末、召天されたのです。ご主人と中高校生を含む三人の子どももお別れです。私も三十年近く親しくした姉妹だったゆえこちらの衝撃も並々ならないものでした。

これらのことは外見からは「致し方ないもの」や「悲劇」としてしか見えないかもれません。しかし、彼らの家族の中にあるのは、「信仰・希望・愛」がもたらす美しい姿でした。

「祝宴の家に行くよりは、喪中の家に行くほ

## 召天された二人の姉妹を覚えて



うがよい。そこには、すべての人の終わりがあり、生きている者がそれを心に留めるようになるからだ。…知恵ある者の心は喪中の家に向き、愚かな者の心は楽しみの家に向く。」

(伝道者の書七章二、四節)

身近な人の死に遭遇すると、私たちはショックを受けますが、聖書は「必要なことを考えさせる絶好の機会」だとも言っています。人間は死の前には全く無力で、最大の問題は「死」であることを改めて考えさせられるでしょう。しかし聖書が考えるように勧めるのは「人間の無力さ」だけではありません。聖書が示す「死の解決」と「人間に与えられる力」のことでです。

神の前に罪を犯し続け、死ぬものとなり、死後に裁きを受けなければならなくなった人間。しかし、その人類のために神が救い主を送られる約束が旧約聖書にありました。そして、その約束は二千年前に成就し、イエスがこの地上に来られたのです。そして私たちの罪の身代わりに十字架の上で裁かれ、この救いが本物であることを世界に示すために、イエスは三日目によみがえったのです。

「罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に

着き、私たちのためにとりなしていただくのです。…しかし、私たちは、私たちが愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。

(ローマ八章三十四、三十七節)

これは召天記念式で喪主のご主人がメッセージされたときに引かれたみことばです。これはやせ我慢の叫びではありません。歴史的事実に基づく深い確信から出てくる勝利宣言なのです。この地上で長生きするかどうかを私たちはいつも気にしますが、最も重要なのは永遠をどのように過ごすかということなのです。

この九月には、アイルランドからジレット兄弟、インドからはクリアン兄弟が来阪されました。ジレット兄弟は特にアフリカのナイジェリアで幼稚園、小学校、医療施設、聖書学校などを建設する働きを展開しておられます。クリアン兄弟は世界中を回り聖書のことを語っておられる巡回説教者です。世界中で、今でも社会改善の事業と共に、「死の解決」を

テーマにした福音が語られ続けています。そして多くの人が、苦難や病の中にあつて神様からの平安を頂いているのです。みなさんも是非この祝福を得てください。



いそなつまつたー！ 行事報告

九月

八日 塗り絵・工作教室「粘土で作ろう①」

十二日 老健施設「くれない」へ

日曜学校より慰問

十九日 玄遠社書展（大阪市立美術館）

二十一日 ユースセミナー（海洋センター）

二十四日 合同公文教室

二十六日 Jクラブ「スイーツを作ろう」

二十八日 クリアン兄来訪（大阪城観光）

二十九日 お作法教室（華道）

書道

R

私は二回目の玄遠社書展に出品しました。

今年は「五月ばれ」と書きました。特に漢字がむずかしかったです。だけど、先生がわかりやすく教えてくださったので準特選をとれました。まだ、私は上手ではありませんが、ずっと続けてい taraきつと上手になると思っています。

私に通っている書道教室にT君という子がいます。その子は、「毎日新聞社賞」をとっていました。すごいなと思いました。私も先生のお手本を見て、言うことを聞いてもっと練習してT君みたいにな字を書きたいです。同じ書道教室に通っている人の字を見たり、先生方の字を見たり、上手な人の字を見たり、すごく良い機会となりました。私は書道をする時間が大好きです。

これからもお姉ちゃんと続けていきたいです。

→ クリアン兄と大阪城見学。予想外に似合っていたので、みんな大爆笑。



↑ ユースセミナーのため、インドから来日されたクリアン兄。前回来られた時は、ちょうど範奈が生まれた年でした。

←自分の作品をバックに記念写真



↑ 老健施設でおばあさんと握手。みんなで「主われを愛す」と「赤とんぼ」を歌いました。

J-CLUB (ジェイ・クラブ)

N

私の集会には日曜日の午後から小学生を対象にして聖書のメッセージを語る「日曜学校」があります。

そして、今から三年前、土曜学校「J-club」という月一回の働きが始まりました。「J-club」の内容はいろいろあります。「アイスクリーム作り」「色で遊ぼう」「昔遊び」「クレープを作ろう」「マジックをしよう」「おもちゃつき」「お面を作ろう」「スポーツをしよう」「バターを作ろう」「水で遊ぼう」このような企画をしてきました。毎回二十名以上の子供たちが来てくれます。

「J-club」が始まったころは私も小学生だったので、参加者として参加させてもらっていました。しかし、今はワーカーとして手伝いをさせてもらっています。

今月の企画は「スイーツを作ろう」で、スイートポテトを作りました。作り方はとっても簡単ですが味は最高です。今回は二十六人の子供たちが来てくれて、楽しいひと時でした。

手伝いというのはとっても大変で、疲れるものですが、参加する人たちはとっても喜んでくれます。子どもたちはやんちゃな子もいますが、みんなかわいいです。来月は日曜学校と合同で「秋の遠足」があります。

これからも喜んでみんなのお手伝いをしていきたいです。

編集後記

この月の大事件と言えば他にもありました。家族七人のうち四人がインフルエンザに倒れたということです。一人がかかったときマスクも消毒液も準備したのですが…。守られている幸いと人間の弱さを痛感させられました。